

編集を終えて

『大学教育研究フォーラム』第4号をお届けいたします。

本号は「大学で何を教えるか—全カリと専門教育—」特集号です。具体的内容としては、シンポジウム、それを受けての各学部・全カリ「総合科目担当者」による、誌上討論的性格をもったコメントがそれに当たります。シンポジウムは私たち編集委員二人が企画実行に関わっておりますので、評価は差し控えたいと思いますが、限られた時間と私たちの拙い進行にもかかわらず、各パネリストの報告・発言には、これから全カリが、否それにとどまらず専門（基礎）教育が検討に付すべき論点が出揃っていると思います。当日参加者が少なかつただけに、是非ともこの機会に一人でも多くの学内関係者のお目にとまることを願ってやみません。

加えて「高畠通敏先生にきく」は当初の予想をはるかに超えて、本特集の内容を見事に補ってあまりある内容になっています。すなわち高畠先生は、全カリが強く意識している学生と人間的な深い接触を持った教育を、「基礎文献講読」という形で専門学部における専門基礎教育ないし専門導入教育として、30数年来おこなってきた法学部のなかにあつてその中心的な担い手であります。しかも、誰でも語ることのできる理念やシステムどまりではない、自己の教育と研究の統合、精確にいきますと切り結びを身をもって行なつてこられたことがここでは丁寧な語られており、読み手にリアルに伝わってきます。全カリ教育改革も、今回のようなシンポジウム他の言説も、理念の提示やシステム改革どまりではなく、私たちもひとり一人が身をもって生きることが大切であることを再認識させていただきました。

最後になりましたが、特集以外に、若い学生の皆さんの海外研修・体験レポートはじめ、実践に深く根ざした授業改革に関連した多彩な内容をもった玉稿を頂いた方々に、お礼を述べさせていただきます。(T.O.)